

会議のトピックス(III)

日本原子力学会炉物理部会・核データ部会合同企画セッション

分離変換技術の実現にむけて

炉物理・核データは如何に寄与できるか

日本原子力学会 2006 年秋の大会において開かれた、炉物理部会・核データ部会合同企画セッションの内容を掲載する。プログラムは次の通りであった。

9 月 28 日 (木) 13:00～15:00

座長 (東工大) 関本 博

(1) 分離変換技術を導入した場合の HLW 処分

(JAEA) 西原 健司

(2) FBR による核変換技術の現状と課題

(JAEA) 杉野 和輝

(3) ADS に関する炉物理研究の現状と課題

(京大) 三澤 毅

(4) 核変換用核データの測定状況

(東工大) 井頭 政之

このうち、(3)を除く 3 件の発表を以下に掲載する。

(編集委員会)